

溪仁会 エコびと エコもの

つながる 続ける 私たちの取り組み報告
～溪仁会グループ環境活動レポート

小さな「気付き」を
大きな「つながり」へ。



iK 溪仁会グループ

医療 溪仁会 社会福祉 溪仁会
法人 法人

溪仁会エコびとエコもの

- ①あさがおグリーンカーテン……豊平ハーティケアセンター ●03
- ②自転車による移動の推進……コミュニティホーム白石 ●04
- ③生ゴミの堆肥化……グループホーム西円山の丘 ●05
- ④利用者様によるくず入れ作り……新琴似ハーティケアセンター ●06
- ⑤マイボトルの利用推進……溪仁会円山クリニック ●07
- ⑥雪冷房システム……コミュニティホーム美唄 ●08
- ⑦古紙リサイクル……札幌西円山病院 ●09
- ⑧高機能断熱フィルム……定山溪病院 ●10
- ⑨地下水上水化システム……手稲溪仁会病院 ●11
- ⑩廃材工作……西円山敬樹園 ●12
- ⑪ペットボトルキャップ回収……手稲溪仁会病院 ●13
- ⑫リングブル収集による車椅子寄贈……溪仁会グループ ●14
- ⑬感染性廃棄物リサイクル……溪仁会グループ ●15
- ⑭おたるドリームビーチ清掃活動……溪仁会グループ ●16

エコびと・エコもの

気づいたことから始めています! ●17

- 【地域のゴミ拾い】……コミュニティホーム八雲
- 【電池の見直し】……青葉ハーティケアセンター
- 【節電青いシール】……円山ハーティケアセンター
- 【地中熱ヒートポンプ】……きもべつ喜らめきの郷
- 【花のたね地域交流活動】……手稲溪仁会ハーティケアセンター
- 【オリジナルエコバッグ】……手稲溪仁会病院

私たちのつながる続ける取り組みと成果一覧 ●18

- 溪仁会グループ独自のマネジメントシステム構築の取り組み
溪仁会マネジメントシステム「KMS」について ●20
- 溪仁会グループ環境活動のあゆみ ●21
- 環境活動に関するデータ集 ●22



自分のフィールドで
何ができるかを考える。
その姿勢を、
これからもずっと大切に。



KMS会議
環境保護担当者からの
メッセージ

東 信弘

溪仁会グループでは、事業理念の体現に向けて多様な取り組みを行ってきました。そのひとつが2004年のISO14000、通称「環境ISO」の取得でした。環境パフォーマンスの向上は、言い換えれば業務の効率化です。業務が効率化され、ゆとりが生まれれば、より多くの患者様を診察し、患者様一人ひとりのコミュニケーションの時間を増やすことができます。ですから、「環境を考えることはホスピタリティーの向上、患者様のプラスにつながる」と考え、私たちは環境マネジメントに取り組んできました。

しかし、医療現場の環境活動の中には、目標値の設定や活動の評価がしづらいものもあります。例えば、医療行為に伴い発生する廃棄物は、単純に目標を立てて減らせるものではありません。医療時間・期間の短縮や消費される資源の減少に結びつきますが、これを規格化

したり、他業種と同じような指標で評価するとなると難しいものです。

そこで溪仁会グループでは、ISOの手法を取り入れ、かつ医療機関の特性を考慮した独自の環境マネジメントシステムを構築してきました。環境負荷の抑制は、現代では企業の社会的責任として業種を問わず標準的に求められます。私たちは数値目標の達成を目指す一方で、職員一人ひとりの環境意識を高めることや、気づきを実行に移していく積極的な姿勢を大切にしていきました。結果、職員のアイデアを基にしたユニークな草の根的環境活動が各施設で行われており、周辺地域との連携に発展するなどの副次的な成果も生まれています。

すべての環境活動に共通していえるのは、一人では成果を上げることができないということです。本冊子発行の目的は、グループのこれまでの環境活動をステークホルダーの皆様にご報告することにあります。同時に過去の活動の意義や価値を再評価し、さらに多くの人々と手を携える契機にできたとも考え、取材を進めました。次ページからはグループ各施設で実践されている、環境活動の一部をご紹介します。どうぞ、ご覧ください!



● 豊平ハーティケアセンター

きれいな眺めに癒やされる
「快適」を運ぶカーテンです



【植物による環境改善】
豊平ハーティケアセンター
あさがお
グリーンカーテン



豊平ハーティケアセンター
豊平溪仁会デイサービス 所長
石巻 大史 さん
植物の世話は石巻さん含む3名の職員が中心。利用者様から生育のアドバイスをいただくこともあるそう。「休みの日も、たまに水やりに来ます。順調に育っていくのがうれしいですね」

● 目指せ、冷房の負担低減
緑いっぱい涼しい雰囲気

つる性の植物をネットなどに絡ませて生育させ、シェードの役割をさせることで建物の温度上昇を抑える「グリーンカーテン」。

豊平ハーティケアセンターでは2011年からこの取り組みをスタートした。「利用者様が一日の大半を過ごすレクリエーションルームは、厳しい日差しが差し込むセンター南西にあり、夏は冷房を使わざるを得ません。少しでも環境への影響を抑えられないかと考えていた折、職員から、グリーンカーテンの提案があつたんです」

2011年は豊平区の花、あさがおを育成。2012年はさらに、きゅうりとゴーヤも植え付けた。

「水やり後は特に涼しさを感じます。また、色とりどりのあさがおや葉の緑は涼感を高めてくれる。利用者様がよく、室内から観賞されています」と石巻さん。視覚的な涼しさも得られるグリーンカーテンに、道行く地域の方が足を止めて見入る光景も最近よく見られるという。「今年は昨年よりも上手に育てられました。来年はさらに、効果を上げていきたい」と、継続の意欲も高まっている。

● 遮熱だけでなく、葉からの蒸散による気化熱でも温度上昇を抑制するグリーンカーテン。自然の力を使うので、省エネでエコ。



● 今年は5月中旬にあさがおを植え付けた。最も気温の高まる7~8月に、ちょうど花が咲き、緑が生い茂る。

● 順調な生育が温度抑制効果を高めることに直結する。大きめのプランターを使うなど、随所に工夫を凝らす。

● コミュニティホーム白石

ペダルをこぐたびに感じるのは
さわやかで、クリーンな風

● 省エネで、CO₂排出量はゼロ

● 環境意識も高まった自転車利用

コミュニティホーム白石では2006年の道路交通法改正を機に、職員の近隣エリアへの移動手段として自転車を導入した。居宅介護や支援サービスなどの訪問時、施設から2キロ圏内を目安に使用している。

「現在、訪問の3分の1は自転車で行われています。機動性に優れ、駐車のことを気にする煩わしさもないので、快適。かなり積極的に利用しています」と高岡さん。その成果は数字にもしっかりと表れており、1年間で約140リットルのガソリンが節約されている計算になるといいます。省エネになると同時に、その走行分のCO₂排出量が削減されていることにもなる。

コミュニティホーム白石
経営管理部 施設管理課 課長
高岡 賢治 さん

高岡さんの所属する施設管理課は、コミュニティホーム白石で所有している6台の自転車の修理・メンテナンスを担当。「さび落としなど手入れをしっかりとしているので、最初に導入した自転車もいまだ現役です」



● 自転車が利用できるのは4月~11月頃まで。居宅介護サービス、地域包括支援センター、ヘルパーサービスの3部署が主に利用。

● CO₂排出量削減

コミュニティホーム白石
自転車による
移動の推進

行くのにも車を使っていた職員が、今では自主的に徒歩で移動する姿も多く見られるようになった。

「環境を気にかけることが自然に変わった。こうした意識の変化はとても大きいことです。いずれは電動自転車の利用も視野に入りたい」と語る高岡さん。もともとつと環境のために。夢は、大きく膨らんでいる。

● 駐車場の問題を気にする必要がなく業務に集中できる、と好評の声も。夏は日焼け防止カバー、冬は厚着をして、積極的に利用している。「この間見かけたわよ」など、地域の人から声をかけられることも増えた。



● グループホーム西円山の丘

野菜くずも、魚の骨も

きれいな花を咲かせる力に

[循環型社会への第一歩]
グループホーム西円山の丘
生ゴミの堆肥化



●生ゴミをしっかりと分解させるためには、コンポスト内の基材全体とまんべんなく混ぜる必要があります。意外に重労働。順調に分解されると腐敗臭はなく、畑のようなにおいが少しする程度。

調理時に発生する廃棄物を
堆肥化して地域の花壇に

グループホーム西円山の丘では、2010年より、調理時に発生する生ゴミの堆肥化に取り組んでいる。堆肥づくりは発酵に適した室温が保てる11月からスタート。3つのフロアごとに設置した段ボール製のコンポストに、1日2回、生ゴミを入れて攪拌する作業を4月まで続ける。

投入する生ゴミは野菜くずから魚の骨や内臓まで幅広い。「生ゴミの投入量は分解の具合で調整が

グループホーム西円山の丘
認知症対応型共同生活介護 ホーム長
亀田 志乃さん

「毎日の作業は楽ではないのですが、地球のためになり、地域のためにもなる。今後も継続し続けます」。初年度は3つだったコンポスト。町内会の花壇の面積に合わせ、2年目からは6つに倍増している。

必要です。フロアごとに職員が情報共有し、状態を確かめて作業を行っています」と亀田さん。自分たちの手で処理するようになってから職員の意識も変わり、ゴミの排出自体を抑えようと努力するようになった。

完成した堆肥は、施設が立地するエリアの町内会が手入れする花壇に提供している。この堆肥の提供をきっかけに、春に行われる花壇への花の植え付けに利用者様や職員が参加するようにもなった。「お花の生長ぶりを話題に、町内の皆様とお話することが増えました。地域との交流が生まれたことも、この活動の大きな成果だと感じています」

●段ボールコンポストの材料

- ・ 段ボール (みかん箱サイズが目安)
- ・ 基材 (ピートモス、もみ殻くん炭を混ぜたもの)
- ・ 生ゴミ計量用はかり

用具はすべてホームセンターで安価に購入でき、段ボールは翌年以降も使い続けられるので、その点でもエコ。1日に入れる1箱あたりの生ゴミの量は約350gが目安。



● 新琴似ハーティケアセンター

一枚のチラシから学ぶ 「もったいない」の心構え

施設内で使用する
くず入れをチラシで作成

新聞の折り込みチラシを折って作る紙製の入れ物。新琴似ハーティケアセンターでは、これをくず入れとして利用している。作っているのは、センターの利用者様である高齢者の方々だ。「私がこちらに赴任した3年前には、すでに有志の方が作っていらっしや

いました。活動は自然発生的に始まり、続いてきたようです」と鬼頭さんは言う。車椅子の利用が多い施設の性質上、新琴似ハーティケアセンターでは床にゴミ箱を置くのを避けている。そのため、ゴミ箱代わりになり、テーブルの上に置いても邪魔にならず、汚れたらすぐに取り換えられるチラシのくず入れは使い勝手が良く重宝だ。「利用者様は、ものをすぐに捨てず、



新琴似ハーティケアセンター
新琴似溪仁会デイサービス 所長
鬼頭 誠一さん

わざわざ作ってくださるものだからこそ、いただく時には心を込めて「ありがとうございます」とお礼を伝えるという鬼頭さん。「皆様、とても丁寧に折ってくださる。感謝の一言です」

●空き時間に職員とともに作ったり、利用者様同士で折り方を教えあひながら作ることもある。



[身近な資源の活用]

新琴似ハーティケアセンター
利用者様による
くず入れ作り

最後まで活用しなさいと言われてきた世代。その精神に触れることは、とても勉強になります」と鬼頭さん。

職員も、不要な照明の消灯をはじめ、事務所スペースの節電などの環境活動に励んでいる。

小さなことでも、自分のできるところから確実に行動する。チラシのくず入れは、利用者様と職員が共有する「もったいない精神」の象徴だ。

利用者様の声

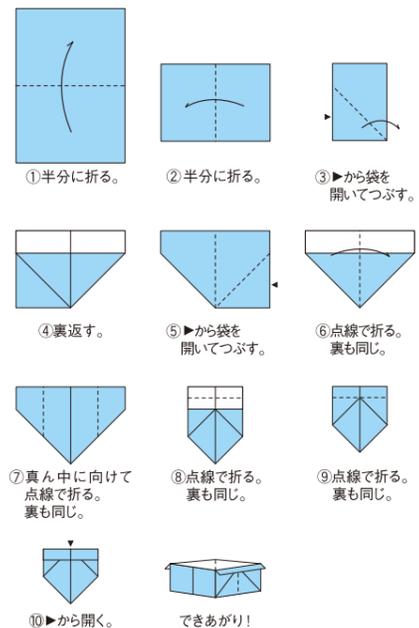
使ってもらえると、
とってもうれしいですね

——白川フサ様



くず入れは、時間のある時に家で作り、ある程度の量がたまったら持ってきます。このために家族も、チラシをとっておいでしてくれています。活動というよりは趣味に近い感覚ですが、作ってきた入れ物が使われているのを見るのはうれしいものです。

●くず入れの折り方の一例



●汚れていなければゴミだけ捨てて使い続けることもある。「無駄に捨てることはしませんね」

● 溪仁会円山クリニック

エコを突き詰めたら

「捨てない」にたどり着きました

[プラスチックゴミの発生抑制]

溪仁会円山クリニック
マイボトルの
利用推進

溪仁会円山クリニック
保健事業部 栄養指導科 科長
佐藤 きぬ子 さん

佐藤さんは3本のマイボトルを所有。赤のボトルが一番のお気に入り。「最近では黒ウーロン茶を入れることが多いです。自分が実行していると、利用者様への生活指導にも説得力が出ますね」

● 職員の半数以上に浸透
マイボトルで環境に優しく過ごす

「溪仁会では、グループ全体でペットボトルキャップ収集を行っています。キャップの資源化は、ゴミ削減につながる環境活動です。でも、その活動をする前に、まずゴミを出さない努力をすることが大事なのではないかと思いました」。佐藤さんは、その思いを周囲に伝えるとともに、繰り返し使用できるマイボトルの利用を始めました。佐藤さんの声に共感した周囲の人々も自発的にマイボトルを利用するようになり、現在は5〜6割もの職員がマイボトルで飲み物を持参するようになっている。

マイボトルの利用は、意外なプラスの効果も生んだ。「尿酸値の高い職員が、マイボトル利用を機に糖分の高いドリンクを減らすことをやめ、水やお茶



● 保温・保冷・抗菌などの機能を持つボトルも多く、デザインも多様。マイボトル利用者が増えたことで、ペットボトルキャップの収集量は前年の半分ほどまで減少したそう。「逆を言えば、それだけゴミを出していないということにもなるんですね」



● コミュニティホーム美唄

ちゃんと冷房、そしてクリーン
冬がくれた涼しい夏

[自然エネルギーの利用]
コミュニティホーム美唄
雪冷房システム



● 貯雪庫への雪の搬入は2月。半日で約300トンの雪を入れ込む。「雪が完全に解けた9〜10月頃に、貯雪庫内の清掃をします。それが雪冷房に必要な唯一のメンテナンスです」

「利雪」でつくる、エコと快適
雪冷熱エネルギーによる冷房

北海道内でも有数の豪雪地帯、美唄。コミュニティホーム美唄は、この土地ならではの冷房システム「雪冷房」を、介護老人保健施設として国内で初めて導入した施設だ。

ホールや食堂などは貯雪庫に空気を循環させる「全空気方式」で、一部エリアは全空気方式の熱交換時に雪が解けてできる冷水を使う「冷水循環方式」で冷房している。雪冷房は室外機からの排熱がなく、フロンガスも使用しない。CO₂の排出も電気代も大幅に削減できる省エネ・エコなシステムだ。室温の低下が緩やかで、適度な湿度が生まれるので体に優しく、雪

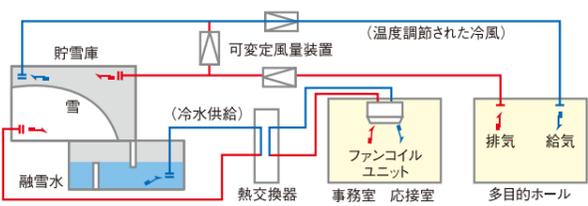
の持つ吸着性のおかげでフィルターなしでも空気が浄化されるなどのメリットもある。「利用者様や職員から空調の苦情が出たことはほとんどありません。それだけ自然で快適な冷房なんです」と富樫さんは言う。室温調整はバルブの開閉で行う。単純な作業だがコツをつかむまでは難しく、また、限りある雪を無駄に消費しないためには日に何度も調整を行う必要がある。2012年には「ドライミスト」を新たに設置。ミストの気化熱との相乗効果で、よりエネルギー効率の高い雪冷房の稼働を模索している。

コミュニティホーム美唄
経営管理部 施設管理課
課長 富樫 正和 さん(左)
星野 幸康 さん(右)
雪冷房システムとドライミストの操作やメンテナンスを担当する2人。空気圧を利用した動力を使わない送風方法を考えるなど、さらなるエコを目指して日々試行錯誤を続けている。



● 開設とともにシステムの稼働を開始。「平成14年度第7回新エネ大賞 新エネルギー財団会長賞」を受賞。

● システムの概要



システム概要
● 貯雪庫/576m³ ● 貯水槽(融雪水用)/20m³
● 冷房面積: 全空気方式/347.84m² 冷水循環方式/144.00m²
● 利用時期/6月~8月 ● CO₂削減量/4,985kg-CO₂/年

● 札幌西田山病院
資源の一方通行を
無くしたいのです

[循環型リサイクル]
札幌西田山病院
古紙リサイクル

札幌西田山病院
サプライサービス課 主任
峯村 隆二さん

新しいスタッフを迎えた時には、リサイクルについても必ず説明をする。「加工された紙やカーボン紙など、リサイクル可能な『ミックスペーパー』と呼ばれる紙は意外に幅広いんです」と峯村さん。

日々、みんなで取り組む回収活動
ペーパーレス化もあわせて実践

札幌西田山病院では、業務に伴い排出される紙を各部署や部屋ごとに専用ボックスを設置して回収し、リサイクルしている。10年以上続いている活動はすっかり職員の中に浸透しているが、スタート当初は戸惑いもあったと峯村さんは語る。「最初は何がリサイクル可能な紙なのかわからなかった。でも、みんなで協力しながら続けてきて、今では分別も慣れたものです」
集まった古紙はトイレットペーパーなどの紙製品の原料となる。古紙利用は森林保護につながり、紙製品の製造時に必要となる薬品やエネルギー量も抑えられる。「2011年度に

当院が購入したトイレットペーパーは3万6960ロール。このように大量の紙を消費するからこそ、リサイクルに取り組む責任がある」と峯村さん。近年では紙の消費自体を抑えるため、社内連絡網「ディスクネット」を利用したペーパーレス化も実践している。「常に意識しているのは、『私たちの行動は社会と繋がっている』ということ。だからこそ日常の中での環境活動を、着実に続けていきたいと思っています」



●1日に排出される古紙の平均量は60kgほど。古紙50kgは直径16cm、高さ8mの立木1本分に相当する。そこまで生長するには、20~30年の歳月が必要。



●院内では、排出した古紙を原料としたティッシュペーパー、トイレットペーパーを購入して使用している。

●古紙の回収・リサイクルの流れ



●札幌西田山病院
古紙回収実績とリサイクルペーパー購入量

■古紙回収実績 (kg)

2009年度	22,370
2010年度	24,390
2011年度	25,280

■リサイクルペーパー購入量

	トイレットペーパー (ロール)	ティッシュペーパー (個)
2009年度	37,728	18,540
2010年度	37,152	18,540
2011年度	36,960	20,280

● 定山溪病院
窓からの熱を遮断する
さりげないけれど、頼れる味方

紫外線・赤外線のカットで
室内の温度上昇を抑制

「冷房のない当院にとって、夏の暑さ対策は長年の課題でした」と齊藤さんは話す。「施設全体で外気温より室温が高くなる傾向にあり、特に日当たりの良い東面と南面の部屋の温度上昇は著しかったんです。患者様への配慮という観点から、冷房導入をという声は多く寄せられていました。ただ、できるだけ環境負荷の少ない方法を採用したいと考えていました」

そんな折、紫外線と赤外線を遮断する断熱フィルムの存在を知り、少しでも暑さを軽減できればと、一部の部屋でテストを行ったところ、予想以上の効果が得られた。「フィルム使用後は、室内の温度上昇が明らかに緩やかになりました。光を浴びた時のジリジリ感も軽減され、その効果に

[冷暖房効率アップ]

定山溪病院
高機能
断熱フィルム

驚きました」
2009年に92枚、2010年には236枚の窓にフィルムを貼り付けた。断熱フィルムは室内の熱が漏れるのも防ぐため、冬の暖房効率も高めてくれる。「薄いフィルムですが、当院にとっては大変重要な省エネアイテム」と齊藤さん。冷房を設置してほしいという声は、今ではずっと少なくなりました。



定山溪病院 経営管理部
サプライサービス課

課長 齊藤 秀樹さん(左)
主任代理 久保 晃一郎さん(右)
「環境については、いまや当たり前のこと。温泉地に位置しているので、温泉熱の利用にも取り組んでみたいと思っています」と、今後の展開を考えている2人。

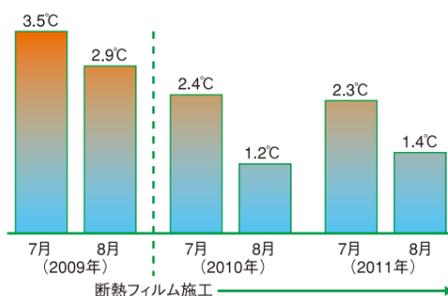


●以前は日のある時間帯だけでなく、日中に温められた壁などからの放熱で、夜になっても室内は暑いままだという。今は、日中でも快適だ。

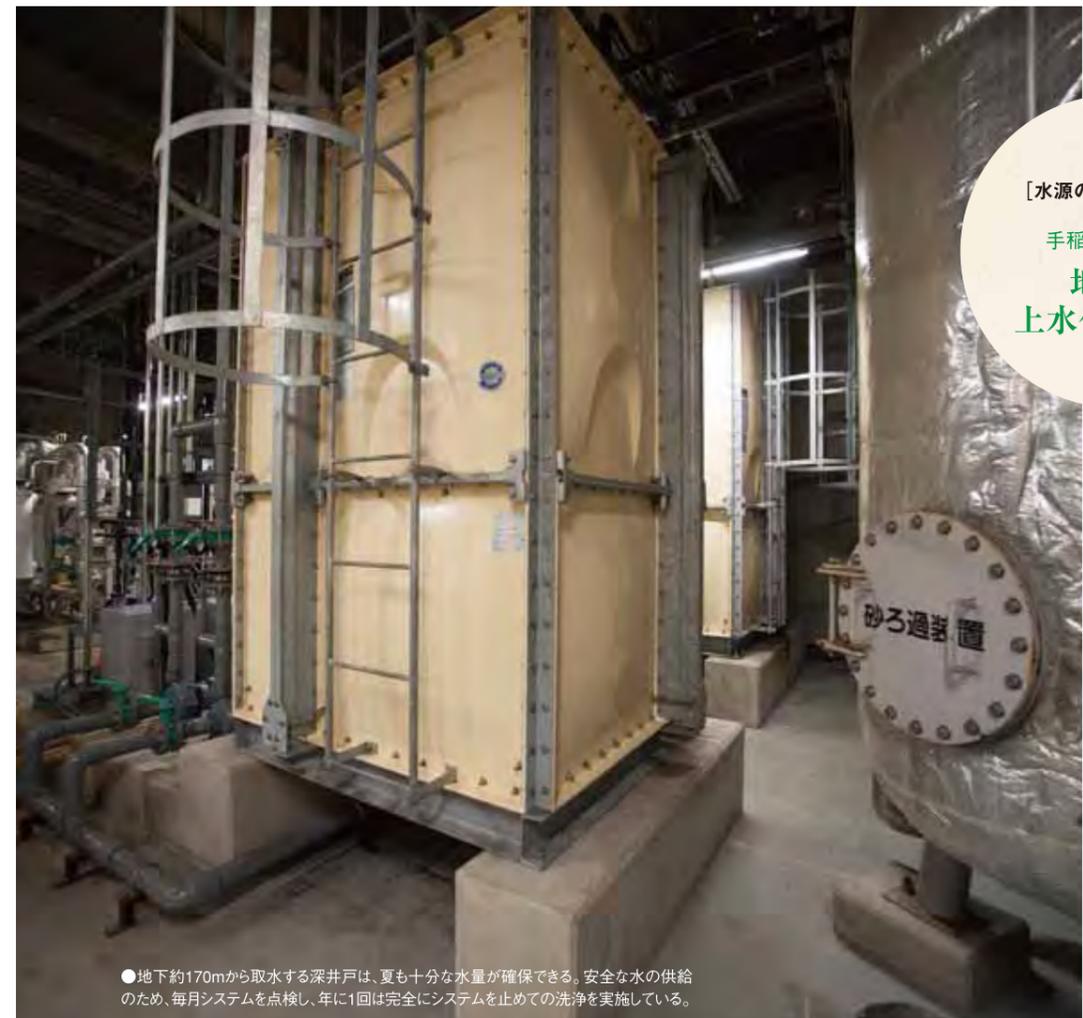


●職員が利用する場所は色付きタイプを、病室にはクリアタイプを使用。フィルムを貼ることで、万が一ガラスが割れた場合も飛び散りにくい。防災対策にもなっている。

●定山溪病院 外気温と比較しての室温の温度上昇値



[水源の確保と節水]
手稲溪仁会病院
地下水
上水化システム



●地下約170mから取水する深井戸は、夏も十分な水量が確保できる。安全な水の供給のため、毎月システムを点検し、年に1回は完全にシステムを止めての洗浄を実施している。

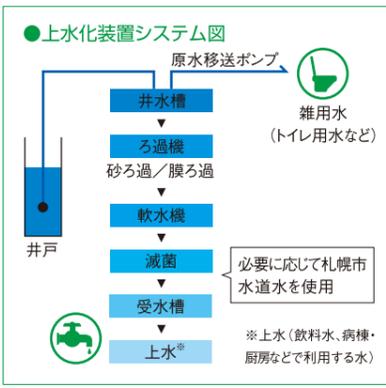
●手稲溪仁会病院
水は無限の資源じゃない
つくってわかったその大切さ



手稲溪仁会病院
経営管理部 施設サービス課
課長補佐
矢田目 泰至 さん
「井戸水だと気づいている人は少ないと思います」と矢田目さん。水質検査を定期的に、念入りを行うことで、水道水と変わらない安全でおいしい水を供給し続けている。

使用量の8割を井戸水にあわせて節水・節電も意識

●手稲溪仁会病院の水使用量は、2011年の月平均で2万3000立方メートル。病院という業務の性質上、大量の水を使用する。「水も限りある資源です。そこで開院当初から雑用水として利用していた井戸水のさらなる活用を考えました」と、担当の矢田目さんは取り組みのきっかけを話す。井戸水を飲料水としても利用するために、2004年に上水化システム



●手稲溪仁会病院は災害拠点病院でもある。災害時にも稼働できるよう、非常用電源も備えている。

を導入。汲み上げられた井戸水は、2度のろ過と滅菌の工程を経て飲料水として供給されるほか、原水のまま、トイレ用水などの雑用水にも使用されている。現在は水使用量の8割が井戸水だ。「自分たちで水源を確保しているからといって、無尽蔵に使っていいというものではありません。上水化システムの導入後、施設内のトイレや手洗いはすべて、自動水栓の節水タイプに切り替えました」と矢田目さん。「水を使うということは、汲み上げたり供給するための電気を消費することもあります。節水を心掛けることで、節電も実践していきたい」

●西円山敬樹園
ゴミにするか、資源にするか
それは見る人次第です

●廃材を資源として活用
利用者様に合った介助用品を製作

●個人に合わせた介助用品・補助用品を手作りすることは、福祉の現場では広く行われている。「利用者様の体にフィットするアイテムを既製品で探すのは大変なこと。短期間しか使わないのに高額だったり、今すぐ必要なのにすぐに手に入らなかったりもします。だから、簡単なものであれば私たちが作ってしまうことが多いんです」と田中さんは話す。

●ある日、施設内の物品整理をしていた時に棒やスポンジなどの廃材を大量に発見。以前から廃材の利用は行っていたが、収納棚を作成し、本格的に介助用品・補助用品の製作材料としてストックすることにした。「製作には、新品の材料を使うこともありますが、再利用可能な廃材の中で使えそうなものはないかをまず



西円山敬樹園 施設ケア部 生活リハビリ課
言語聴覚士 高橋 春香 さん(右)
作業療法士 田中 智子 さん(中)
コミュニティホーム白石
リハビリテーション部
理学療法士 鎌田 雅裕 さん(左)
小学生の頃、図工は得意科目だったという3人。手に入ってうれしかった廃材は「バスマットと、ソファの中身のスポンジ。木材と異なり、カッターなどで簡単に加工できます。さまざまなアイテムに変身させました」

[廃棄物削減とリユース]

西円山敬樹園
廃材工作

●最近では、自宅で不要なものが出ると、材料にならないかと考えるようになったそう。使用の終わったアイテムは解体し、使えるものはまた材料として棚にストックしている。



●足台や着脱可能な車椅子用ヘッドサポート、簡易オットマンなど、製作したアイテムは多種多様。強度などの安全性や使い心地、デザイン性にも配慮する。

地域に後押しされてスタート
「拠点」として環境活動を支える

ペットボトルのプラスチックキャップは立派なりサイクル資源だ。浜仁会グループでは、この回収活動を5年ほど前から行っている。「最初は、ある企業に頼まれて回収ボックスを設置していましたが、しばらくしてその企業が回収活動をやめてしまいました。しかし、ご家庭でキャップを集めて持ってきてくださる方が後を絶ちませんでした。せっかく地域に根付いた環境活動を終わらせてはいけなと考えました」と三浦さんは言う。

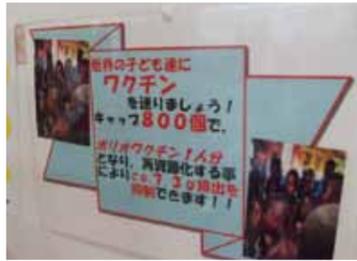
2009年、浜仁会グループの活動としてあらためて回収をスタートした。手稲浜仁会病院のスタッフは約1500人、1日の来院者は約1400人、加えて地域の方々。多くの参加者により、現在は年間約160キログラム、個数にして約6万4000個ものキャップを回収している。キャップ回収活動

● 手稲浜仁会病院
家庭や地域と一体で。
小さな1個を、大きなパワーに！

はプラスチックゴミ削減につながり、リサイクルによる収益金は子どものための医療や福祉に役立てられる。

「個々の力は小さくても、集まれば大きな力。これからも回収拠点として機能し、地域と一体で環境活動、社会貢献活動を盛り上げていければと思います」

●2011年11月までのリサイクル収益金は世界の子どもたちへのポリオワクチン送付資金となり、累計4,380人分のワクチンを送った。2011年12月以降は、東日本大震災への寄付金と、障がいを持つ北海道の子どもたちを医療ケア付きキャンプに招待するための費用に活用されている。



【資源リサイクル】
手稲浜仁会病院
ペットボトル
キャップ回収



手稲浜仁会病院
経営管理部 施設サービス課
三浦 隆行さん
「人は良いことをすると自然と笑顔になる。キャップを持ってきてくださる方は、皆素晴らしいお顔をされています」と三浦さん。「キャップ持ってきたよ!」と声をかけられるなど、小さなふれあいも生まれている。

● 浜仁会グループ
小さな善意が積み重なって
3台の車椅子になりました



●2009年10月に行われた、札幌市子ども未来局への車椅子贈呈式の模様。2台目は札幌市北区役所に、3台目は八雲町運営の「噴火湾パノラマパーク」に寄贈した。

【環境配慮と社会貢献活動】
浜仁会グループ
リングプル収集による
車椅子寄贈



手稲浜仁会病院
経営管理部 施設サービス課
鈴木 啓介さん
集まったリングプルの送付などを担当する鈴木さん。「目標を持つとやる気が出るもの。環境保全になるだけでなく、目に見えるかたちの社会貢献にもなるこの活動は、やりがいもひとしおです」

● リングプル回収でゴミ削減
車椅子に交換して地域に還元

浜仁会グループ全体で取り組む環境活動の中で最初に実施されたのが、2008年にスタートした缶ジュースのリングプルの収集だ。ゴミの削減につながり、集めたリングプルは車椅子に交換して福祉に役立てることができ。誰もが馴染みやすく、明確な目標があるので意識を共有しやすいというところが、最初の活動として採用された大きな理由だった。

施設内に設置された回収ボックスに集められたリングプルは、リングプル再生ネットワーク「プルネット」に順次送付される。「690キログラムでアルミ自走式車椅子1台分になります。リングプル1個は約0.5グラム。地道な活動ですが、施設を訪れる皆様の協力で、これまでに3台もの車



● 透明のボックスを使用し、成果が目に見えるようにすることでモチベーションの向上を図る。これまでに収集したリングプルの総量は約3000キログラム。

椅子を公共施設へ寄贈できました」と担当の鈴木さんは話す。職員の出合わせでの収集状況の報告や、収集量の院内掲示など、活動の活性化を図る広報活動は内外に対し随時行っている。そうした日々の努力が功を奏し、今ではリングプルを届けるためだけに来院する近隣住民の方もいるほど、地域に根付いた活動に成長した。

医療と地球の未来のために できることには挑戦します

始める前に工程を入念にチェックしました。今



手稲溪仁会病院
経営管理部 施設サービス課

三浦 隆行さん

アメリカでスタートしたという感染性廃棄物のリサイクル活動。北海道で実践するところはまだまだ少ないそう。「安全面への配慮を第一に考えて処理します」と三浦さん。



●専用容器は20ℓ入りと42ℓ入りの2タイプを用意。手稲溪仁会病院だけで、1日に42ℓ容器約130個分の廃棄物が排出される。

【医療廃棄物リサイクル】

溪仁会グループ 感染性廃棄物 リサイクル

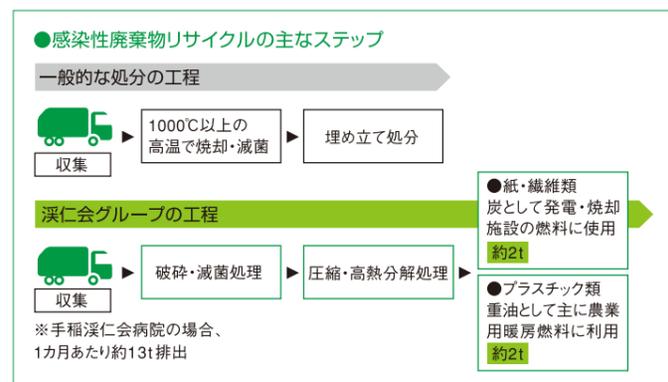
「実地確認を行っています」と三浦さん。環境への配慮と安全の担保の両立は簡単な道ではないが、医療機関の社会的責任として、グループ全体でリサイクル活動の実践を続けている。

独自のシステムを構築し 安全に運搬、リサイクル

感染性廃棄物とは、使用済みの手術器具やおむつなど、感染性病原体を含む可能性のある医療廃棄物のことだ。高温で焼却・滅菌した後、埋め立てるのが一般的な処理方法だが、溪仁会グループでは2007年からこれらを産業用の燃料に再生するリサイクル活動に取り組んでいる。

感染性廃棄物の処理については法律で厳しい管理が求められ、不法投棄などが起きた場合は、処理業者とともに医療機関も管理責任を問われる。溪仁会グループでは、一度ふたを閉めたら開かない仕組みの専用容器を使用し、各容器に個別のバーコードを付与。運搬はGPS付きトラックで行うという独自のシステムで管理を徹底している。

「リサイクル時の最大の留意点である減菌処理については、本当に微生物をゼロにできるのか、取り組みを



【環境保護活動と地域貢献】

溪仁会グループ おたるドリームビーチ 清掃活動



手稲溪仁会病院 経営管理部 施設サービス課 課長

東 信弘さん

清掃後には参加者におにぎりや豚汁などが振る舞われる。その料理長を務める東さん。「みんなのために早朝から仕込んでいます」。毎年大好評で、清掃活動の名物になっている。

● 溪仁会グループ 動いて、話して、広がる みんなの環境への思い

グループの環境活動の象徴 毎年実施するビーチ清掃

溪仁会グループがおたるドリームビーチ付近の清掃活動を始めた理由は2つ。「地域貢献に重点を置いた活動をしたかった。また、イベント的な活動を動かして行う取り組みを通じ、職



●毎年清掃しても約200袋近くのゴミが出る。家電や家具が落ちていることも、外国からの漂着物も多く、環境問題は国を越えた課題であることを実感させられるという。



●2008年に清掃活動をスタート。清掃は約1時間半〜2時間かけて行う。職員の家族のほか、最近では近隣の学生や取引先の方の参加もある。



員の環境意識を高めるといふ狙いもありました」。もともと、企画した東さん自身、この活動に最初から大きな効果を期待していたわけではなかったと言う。「しかし当日、ビーチでたくさんゴミを目の前にした参加者は、私も含め皆、ひとつも残すものかと真剣になりました。ゴミ拾いは、いいことをしたいと思う気持ちを自然に湧き立たせてくれたんです。そしてきれいになったビーチを見た時には、大きな達成感とやりがいを感じました」

希望者のみによる活動だが、参加者は年々増えており、2012年は132名が集まった。各施設の職員が、ここで互いの環境活動について情報交換をすることもあるという。年に一度の清掃活動は、溪仁会の環境活動を持続させ発展させる、大切な時間となっている。

溪仁会グループ独自のマネジメントシステム構築の取り組み

溪仁会マネジメントシステム「KMS」について

溪仁会グループでは、事業理念を経営に具体的に取り込み、質の高い医療、福祉サービスを提供するための組織づくりを目指し、第三者評価としてのマネジメントシステムの導入と内部統制の構築を行ってきました。

2000年から段階的に導入した、品質に関するISO9001(品質マネジメントシステム:QMS)と環境に関するISO14001(環境マネジメントシステム:EMS)の国際マネジメント規格、個人情報保護に関するJISQ15001(プライバシーマーク:PMS)などの第三者評価を積極的に活用。以来、医療、福祉サービスの質の継続的な改善に努め、併せて環境保護と個人情報保護のシステムを運用してきました。

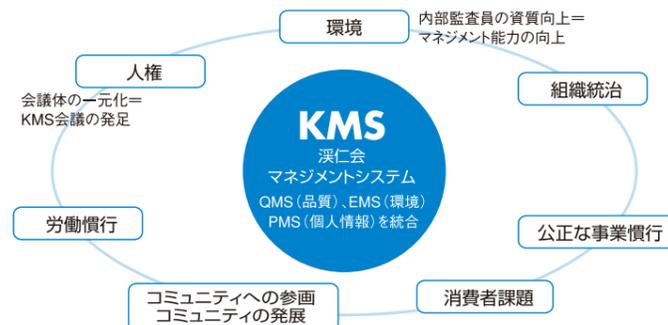
ISO9001の導入から10年以上が経過し、この間にグループを取り巻く経営環境は大きく変化しました。医療、福祉の質や経営の質について、さまざまな検討が行われるようになり、グループにおいては、組織の拡大・発展に合わせて、グループ全体にマネジメントシステムの取り組みが定着。内部監査員も500名を超えました。また、2011年度から当グループの第2期中期5カ年経営ビジョンがスタート。これらを受け、新しい時代の保健、医療、福祉、介護サービスの提供に対応した組織づくりと、効率的な経営体制の確立や仕組みの運用を目指し、独自のマネジメントシステム「KMS=溪仁会マネジメントシステム」の構築を推進することになりました。

私たちが掲げる社会的責任(CSR)経営の両輪は、医療、福祉の質(公益性)と経営の質(持続性)です。この2つをより高いレベルで実現し、正の連鎖をより円滑にさせていくために、これまで別個に運用されてきたQMS、EMS、PMSの各マネジメントシステムを「溪仁会マネジメントシステム(KMS)」として統合、再編することにしました。つまり「KMS」は、グループのCSR経営をより確実なものにするための「骨格」であり「ツール」でもあるのです。これに伴い、環境に関するISO14001については2011年10月にグループ全体が、個人情報保護に関するプライバシーマークについては、2012年の6月を最後にグループの全法人が更新を終了しました。

また、「KMS」の構築は、組織の社会的責任の国際規格であるISO26000への適応の前提にもなります。これまで培ってきたISOのマネジメントシステムを礎に、ISO26000の「自己宣言」に向けた活動とも連動しながら、自律達成型組織の構築を図ることも重視しています。現在、「KMS会議」を中心に、各ワーキンググループや委員会等が協議を重ね、「KMS」が当グループにとって有効性と効率性の高い自律的なマネジメントシステムとなることを目指しています。

■ 溪仁会グループ独自の「KMS」の構築

CSR経営の実現のために、ISO26000の7つの原則、7つの中核主題を適用し、独自のマネジメントシステムとしてアプローチする。



コミュニティホーム白石

●紙おむつの見直し

紙おむつ使用入所者の使用状況を調査し、結果をふまえて適切な紙おむつを選択。大幅な紙おむつ使用量の削減、ゴミの減容、経費削減となった。

●ボイラーのガス化

A重油から天然ガスを燃料としたボイラーに移行。CO₂およびNOxの削減、カーボンなどのばい煙減少につながる。

●節水コマの使用

カラン・シャワーなどに節水コマを設置。未設置と比較して、年間約10%の節水。

●備品などのリユース

古くなったテーブル・棚などをリメイクし再利用。備品購入の減少、経費削減につながる。

●日々の介護およびリハビリ

入所者個々のADL(※)を十分考慮に入れ、在宅復帰を目標とした介護およびリハビリを実施。ADL向上による紙おむつの使用減少や車椅子から杖歩行への移行などによる資源の使用減少が見られる。

●自転車による移動の推進

⑨詳細は P04 に掲載

●アイドリングストップ

主にデイケアとデイサービスの送迎業務車両を対象に実施(4月~10月)。環境配慮の意識向上につながる。

●紙ゴミ・カン・ペットボトルなどの資源ゴミ分別

紙・空き缶・ペットボトルをリサイクルを目的として分別・回収し、回収業者製造のトイレットペーパーを購入。環境問題への啓発となる。

コミュニティホーム八雲

●おむつの適正利用

利用者個々にあったおむつなどの使用と使用量の管理を徹底。使用数、排出量ともに低減。

●入浴準備方法の工夫による浴槽水管理

浴室内での入浴準備作業、タイマーの使用などにより、浴槽水の量を管理。

●両面印刷可能プリンターの導入

複数ページにわたる書類の両面印刷を実施。コピー用紙を削減。

●ロードヒーティングの使用低減

天候、温度、降雪量に合わせて、使用時間管理や除雪を実施。使用燃料が低減。

●デマンド監視警報装置の導入

電力の無駄を監視。電力使用量が低減。

●待機電力のチェック

夜勤帯の定時刻に待機電力のチェックを行い、不要な照明や換気扇などを停止。使用電力量が低減。

●生ゴミの堆肥化協力

町が行う生ゴミの堆肥化プロジェクトに参加協力(厨房の生ゴミ)。排出ゴミの再資源化。

●ラベルプリンターカートリッジの回収

使用済ラベルプリンターカートリッジの回収・返却。排出ゴミの再資源化。



●インクなどの補充・交換によるリユース・リデュース

インク補充可能製品の使用を推進(ホワイトボードマーカー・ペン・修正テープなど)。

●両面コピーの推進

コピー機のメニュー画面から両面コピー設定がワンタッチでできるようプログラム。コピー用紙を削減。

●事務所の夜間温度設定

床暖房の設定温度を夕方以降に下げに設定。使用燃料が低減(残業の減少による電力などの削減効果も)。

●アイドリング低減

自動車運転日誌などにアイドリングに関するチェック欄を設ける。意識の向上が見られる。

●地域のゴミ拾い

⑨詳細は P17 に掲載

コミュニティホーム美唄

美唄市東地区 生活支援センターすまいる

●雪冷房システム

⑨詳細は P08 に掲載

●バイオ燃料

コミュニティホーム美唄の送迎車6台(4月~11月)と美唄市東地区生活支援センターすまいるの送迎車3台(4月~12月)に使用。

●節水コマの使用

コミュニティホーム美唄の全ての蛇口に設置。水の無駄使い防止、水道使用量削減に効果。

●生ゴミの堆肥化

コミュニティホーム美唄において、生ゴミ堆肥化のための機材を購入。完成した堆肥を使用してトマトを栽培。ゴミの排出量削減に期待。

●空き缶回収

コミュニティホーム美唄で収集した空き缶を奈井江学園が回収しリサイクル。ゴミ排出量を削減。

豊平ハーティケアセンター

●あさがおグリーンカーテン

⑨詳細は P03 に掲載

●施設内桜の花びら拾い

桜の花びら清掃の実施。地域環境美化につながる。



手稲溪仁会ハーティケアセンター

●花のたね地域交流活動

⑨詳細は P17 に掲載

●野菜作り

利用者様が主体となって、野菜作りから販売までを行う活動を実施。

円山ハーティケアセンター

●アイドリングストップ

送迎車の乗降口にアイドリングストップ実施のお知らせを掲示。



●節電青いシール

⑨詳細は P17 に掲載

青葉ハーティケアセンター

●電池の見直し

⑨詳細は P17 に掲載

新琴似ハーティケアセンター

●利用者様によるくす入れ作り

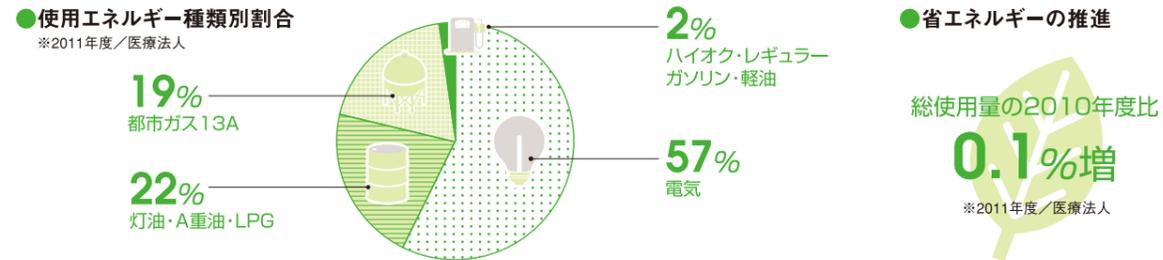
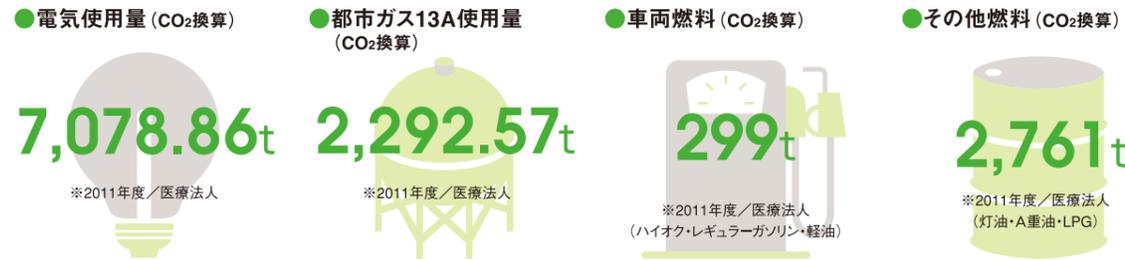
⑨詳細は P06 に掲載

※ADLとは

「Activities of Daily Living」の略で、日本語では日常生活動作という。食事や移動、排泄、入浴といった日常生活に必要な最低限の基本動作のこと。こうした動作ができるかどうか、高齢者や障がいを持つ人の動作能力を判定する指標になる。

環境活動に関するデータ集

浜仁会グループの環境活動に関するデータを集めました。
各施設での環境活動においては、数字には表れない環境改善活動やエコ意識の向上も大切にしています。



浜仁会グループにおける環境活動



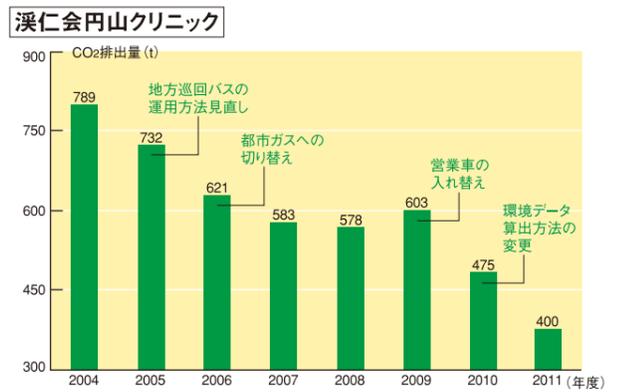
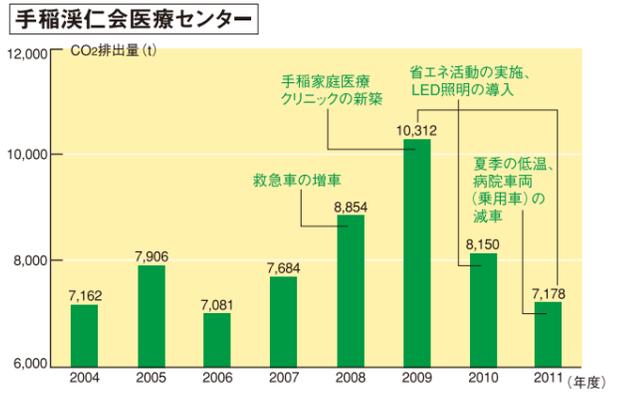
こうした活動以外にも、各施設において、環境改善活動やエコ意識の向上を図っています。

浜仁会グループ基本データ



- 1979 ●西円山病院開院 (6月) ※2009年札幌西円山病院に名称変更
- 1980 ●きれいな環境をめざし山の斜面などの病院周りに植樹 (4月)
- 1981 ●定山溪病院開院 (5月)
- 1982 ●西円山敬樹園開所 (4月)
- 1986 ●西円山病院新棟完成 (5月)
- 1987 ●手稲浜仁会病院開院 (12月)
- 1989 ●コミュニティホーム白石開所 (4月)
- 1990 ●円山クリニック開設 (1月) ※2002年浜仁会円山クリニックに名称変更
- 1993 ●はまなす訪問看護ステーション開設 (1月)
- 1996 ●カムヒル西円山開所・西円山敬樹園デイサービスセンター開設 (4月)
- 1997 ●手稲浜仁会病院に救急部新設 (4月)
- 1998 ●コミュニティホーム八雲開所 (4月) ●株式会社ソーシャル設立 (6月)
- 1999 ●デイサービスセンターすまいる開設 (4月) ●訪問看護ステーションおおしま開設 (5月) ●あおばデイサービスセンター開設 (12月)
- 2000 ●円山浜仁会デイサービスセンター開設 (1月) ●コミュニティホーム美唄開所 (4月) ●手稲浜仁会クリニック開院 (5月) ●デイサービスセンターおおしま開設 (9月) ●グループホーム白石の郷開所 (10月) ●デイサービスセンター白石の郷開設 (11月)
- 2002 ●手稲浜仁会デイサービス開設 (4月) ●グループホーム西円山の丘開所 (7月) ●豊平浜仁会デイサービス・新琴似浜仁会デイサービス開設 (8月)
- 2003 ●浜仁会訪問リハビリテーションセンター開設 (4月) ●訪問看護ステーションあおば開設 (4月)
- 2004 ●札幌西円山病院・定山溪病院でミックスペーパーリサイクル開始 (6月) ●コミュニティホーム白石ショートステイセンター開所 (9月)
- 2005 ●株式会社ハーティワークス設立 (1月) ●おおしまハーティケアセンターリニューアルオープン (8月)
- 2007 ●ケアセンターこころ事業開始・コミュニティホーム岩内開所 (4月) ●手稲浜仁会病院救命救急センター棟オープン (5月) ●地域密着型介護老人福祉施設菊水こまちの郷開所・小規模多機能型居宅介護菊水こまちの郷開設 (7月)
- 2008 ●手稲浜仁会病院小児NIVセンター開設 (4月) ●リングプル収集活動開始 (4月) ●グループ職員による毎年のおたるドリームビーチ清掃活動開始 (6月)
- 2009 ●手稲家庭医療クリニック開院 (10月)
- 2010 ●訪問看護ステーション岩内開設 (10月)
- 2011 ●月寒あさがおの郷開所・月寒あさがおの郷デイサービスセンター開設 (8月) ●デイサービスセンターまへ開所 (11月)
- 2012 ●岩内ふれ愛の郷開所 (4月)

4 医療施設CO₂排出量の推移



溪仁会グループ施設一覧

保健

手稲会丸山クリニック

札幌市中央区大通西26丁目3-16 ☎011-611-7766

治療とケア

手稲溪仁会病院

札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 ☎011-681-8111

手稲溪仁会クリニック

札幌市手稲区前田1条12丁目2-15 ☎011-685-3888

手稲家庭医療クリニック

札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 ☎011-685-3920

療養とケア

札幌西円山病院

札幌市中央区円山西町4丁目7-25 ☎011-642-4121

定山溪病院

札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-3323

介護

西円山敬樹園

札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-631-1021

月寒あさがおの郷

札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333

岩内ふれ愛の郷

岩内郡岩内町字野東69-4 ☎0135-62-3131

菊水こまちの郷

札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 ☎011-811-8110

社会復帰・生活支援

カムヒル西円山

札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-640-5500

コミュニティホーム白石

札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5321

コミュニティホーム八雲

二海郡八雲町栄町13-1 ☎0137-65-2000

コミュニティホーム美唄

美唄市東5条南7丁目5-1 ☎0126-66-2001

コミュニティホーム岩内

岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-62-3800

グループホーム 白石の郷

札幌市白石区本郷通3丁目南1-16 ☎011-864-5861

グループホーム 西円山の丘

札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-640-2200

西円山敬樹園ショートステイセンター

札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-631-1021

おおしまショートステイセンター

宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272

月寒あさがおの郷ショートステイセンター

札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333

岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター

岩内郡岩内町字野東69-4 ☎0135-62-3131

コミュニティホーム白石ショートステイセンター

札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5321

介護予防・在宅支援

札幌市白石区 第1地域包括支援センター

札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-4614

岩内町地域包括支援センター

岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-61-4567

宮城県気仙沼市 在宅介護支援センターおおしま

宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272

札幌市中央区 介護予防センター円山

札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-633-6056

札幌市中央区 介護予防センター曙・幌西

札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-633-6055

札幌市白石区 介護予防センター白石中央

札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5535

札幌市南区 介護予防センター定山溪

札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-3311

札幌市手稲区 介護予防センターまえた

札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 ☎011-685-3141

生活支援・通所介護

青葉ハーティケアセンター（デイサービス）

札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5000

豊平ハーティケアセンター（デイサービス）

札幌市豊平区美園9条5丁目4-21 ☎011-831-5000

円山ハーティケアセンター（デイサービス）

札幌市中央区北1条西19丁目1-2 ☎011-632-5500

手稲溪仁会ハーティケアセンター（デイサービス）

札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 ☎011-685-2568

新琴似ハーティケアセンター（デイサービス）

札幌市北区新琴似12条7丁目1-45 ☎011-763-5500

おおしまハーティケアセンター

宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272

西円山敬樹園デイサービスセンター

札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-640-5522

デイサービスセンター白石の郷

札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-3100

デイサービスセンターすまいる

美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525

デイサービスセンターおおしま

宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272

月寒あさがおの郷デイサービスセンター

札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333

デイサービスセンターま〜れ

岩内郡岩内町字万代45-10 ☎0135-67-7511

小規模多機能型居宅介護 菊水こまちの郷

札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 ☎011-811-8110

溪仁会在宅ケアセンター

札幌市手稲区前田1条12丁目2-8 ☎011-685-2322

札幌西円山病院在宅ケアセンター

札幌市中央区円山西町4丁目7-25 ☎011-642-5000

定山溪病院在宅ケアセンター

札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-5500

指定居宅介護支援事業所コミュニティホーム白石

札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-2252

指定居宅介護支援事業所 西円山敬樹園

札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-644-7650

指定居宅介護支援事業所あおば

札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-8761

指定居宅介護支援事業所すまいる

美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525

指定居宅介護支援事業所やくも

二海郡八雲町栄町13-1 ☎0137-65-2121

指定居宅介護支援事業所ケアプランセンターこころ

札幌市西区八軒1条西1丁目2-10 ☎011-632-0605

ケアプランセンターさつき

岩内郡岩内町字万代45-10 ☎0135-67-7801

ケアプランセンターこころ まるやま

札幌市中央区北1条西19丁目1-2 ☎011-640-6622

在宅支援・生活支援

はまなす訪問看護ステーション

札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 ☎011-684-0118

訪問看護ステーションあおば

札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5500

訪問看護ステーションおおしま

宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2270

訪問看護ステーション岩内

岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-62-5030

西円山敬樹園ホームヘルパーステーション

札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-644-6110

コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション

札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-2008

ホームヘルパーステーションすまいる

美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525

ホームヘルパーステーションおおしま

宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272

ケアセンターこころ

札幌市西区八軒1条西1丁目2-10 ☎011-632-0605

ソーシャルヘルパーサービス白石

札幌市白石区菊水8条2丁目2-6 ☎011-817-7270

ソーシャルヘルパーサービス中央

札幌市中央区北7条西17丁目11 ☎011-633-1771

ソーシャルヘルパーサービス西

札幌市西区発寒8条10丁目4-20 ☎011-669-3530

福祉用具

株式会社 ハーティワークス

札幌市白石区流通センター1丁目7-54 北新ビル1F

☎011-863-8010

地域医療支援

泊村立茅沼診療所

古宇郡泊村大字茅沼村711-3 ☎0135-75-3651